

## 聖霊の性質と働き・役割

原田元道

### 聖霊の性質

- ・ 聖霊は人間固有の性質(人格)を保有
  - 知性、意思、感情をもつ
    - ◇ 聖霊は人々を教え、思い起こさせる(ヨハネ 14:26)
    - ◇ 聖霊は人に力を与える(使徒 1:8)
    - ◇ 聖霊は人に語りかける(使徒 10:19-21)
    - ◇ 聖霊は思いをもつ(ローマ 8:27)
    - ◇ 聖霊は霊的な賜物を自分の望むままに人々に分け与える(I コリント 12:11)
    - ◇ 人は聖霊を悲しませることができる(エフェソ 4:30)
    - ◇ 人は聖霊に逆らうことができる(使徒 7:51)
    - ◇ 人は聖霊を冒瀆することができる(マタイ 12:31)
  - 人間と近い関係をもつことができる
- ・ 聖霊は神固有の性質(神性)を保有
  - 神に等しい
    - ◇ 聖霊は全てのことを知っている【全知性】(I コリント 2:10-11)
    - ◇ 聖霊は永遠の昔から永遠の未来にわたるまで存在している【永遠性】(ヘブライ 9:14)
    - ◇ 聖霊は同時にあらゆる場所に存在する【遍在性】(詩編 139:7-10)
    - ◇ 聖霊を欺くことは神を欺くことに等しい(使徒 5:1-4)
    - ◇ 聖霊は天地創造に関わっている(創世記 1:2 ; 詩編 104:30)

⇒聖霊は人格をもった神

### 聖霊の働き・役割

- ・ 聖霊は人の救いに深く関与
  - 「隠された神秘としての神の知恵＝十字架による救い」を明らかにする
 

「わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。…わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます。」(I コリント 2:7-8, 10)

→聖霊の働きが無ければ、十字架の真意が分からない
  - 罪(イエス様を信じないこと)について世の誤りを明らかにする
 

「その方(聖霊)が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。罪についてとは、彼らがわたしを信じないこと」(ヨハネ 16:8-9)

→聖霊の働きが無ければ、イエス様を信じないことが罪だとは分からない
  - イエス様を信じた人を新しく生まれさせる(新生)
 

『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」(ヨハネ 3:7-8 ; 比較：ヨハネ 1:12-13)

「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(II コリント 5:17)

→神の子とされることに伴う劇的な変化を体験する

⇒聖霊の働きは救いに必要不可欠

- ・ 聖霊は人が救われた後の生活に深く関与

- 人の内に宿り導く

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」(I コリント 6:19)

「わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」(ガラテヤ 5:16)

→いつ如何なる時も共にいて助け導びいてくださる

- 神との間をとりなす

「同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。」(ローマ 8:26-27)

→神の御心に適った祈りへと助け導びいてくださる

- 「霊的な賜物」を与える

「一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。…これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。」(I コリント 12:7, 11)

「たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。…愛がなければ、無に等しい。…愛がなければ、わたしに何の益もない。」(I コリント 13:1-3)

→努力や才能と無関係に与えられる「賜物」は神様と人とを愛するためのもの

- イエス様に似たものへと変える(聖化)

「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」(II コリント 3:18 ; 比較 : ローマ 8:29)

「愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。」(I ヨハネ 3:2-3)

→聖霊の助けを祈りつつ、イエス様のようになろうと努める

- 一致を与える

「それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり」(エフェソ 2:18-19)

「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。」(エフェソ 4:3)

→相容れなかった人々が結び合わされ神の家族となる

⇒聖霊の働きは信仰生活に必要不可欠

## まとめ

- ・ 聖霊は人格をもった神
  - 人間と近い関係をもつことができる
- ・ 聖霊の働きは救いと信仰生活に必要不可欠
  - 十字架と罪について気付かせ、新生へと導く
  - いつも共にいて、神との間をとりなし、イエス様に似たものへと導く
  - 相容れない人々を結び付け、神の家族へと導く